

町田市生涯学習センター

第17回 昭和薬科大学・町田市共催講座
「薬に込められた様々な工夫」

化学薬品である薬には様々な工夫が施され、はじめて「医薬品」として安全かつ有効に使用できるものになります。本講座ではお薬に込められた様々な工夫を紹介し、さらに最先端の「泡（バブル）製剤」に関する話題を提供します。

- 対 象：**どなたでも
日 時：12月3日（土） 14時から16時
会 場：町田市生涯学習センター 7階ホール（町田市原町田6-8-1）
講 師：● 昭和薬科大学 薬剤学研究室
 教授 宇都口 直樹 氏
 薬物を生体内の目的の「場所・時間・量」運ぶ工夫
 ● 帝京大学 薬学部薬物送達学研究室
 教授 鈴木 亮 氏
 小さな泡が医療を変える!!



宇都口 直樹 氏



鈴木 亮 氏

参加費：無料
申し込み：詳しくは11月1日号広報をご覧ください。

問い合わせ

町田市生涯学習センター（町田市原町田6-8-1 町田センタービル6・7・8階）
 TEL 042-728-0071 FAX 042-728-0073
 休館日 毎月第4月曜日（祝日の場合は翌日）および年末年始（12月29日～1月3日）

編集後記

11月。ことしもうやく東京での紅葉の季節。山々からおりてくる紅葉前線が私たちの街に到着しました。日本人にとって、春の桜、そして秋の身近な紅葉は季節の色が醸し出す2大イベントです。今年の夏の異常な暑さも終わり、仕事に、勉学に、レジャーにと皆さんの行動がより活発化する季節。国際交流センターの月間スケジュール表によれば、各部のボランティアが忙しく活動されている様子。今年も余すところ2か月を切りました。日ごろ頑張ってボランティア活動をしている皆様のスキルを磨く手をいったん休めて、外の紅葉の一枚を手にとってその色付をたしかめるとともに、この葉が過ごした1年近くの歴史を振り返ってみてはいかがでしょうか。

ぼろんていえ
国際交流
Volontiers!
 ボランティア

2022年11月
 Vol.131
 【編集/発行】
 (一財)町田市文化・国際交流財団
 町田国際交流センター

～町田国際交流センターだより～

町田国際交流センター
オリエンテーション
 2022.8.28（日） 13:30-16:00



町田地域の方々に『町田国際交流センター』を知っていただくとともに、新しいボランティアの募集を目的としたオリエンテーションが3年ぶりに開催されました。

このコロナ禍で長期間にわたって活動が制限され、その活動の入り口となる機会がしばらく閉ざされていましたが、国際交流活動に興味を持っていながらセンターに足を運ぶことができなかった方々のためにも、「今年はぜひオリエンテーションの開催を!」というボランティアの思いが実り、新体制の7部会で来場者を迎えることができました。

当日は富田センター長の挨拶の後、来場者はそれぞれ興味を持つ部会のブースを訪れ、活動内容について説明を受けました。待ちかまえていた各部会のボランティアに熱心に質問する方、7つすべてのブースをまわって話を聞く方など、支援者として国際交流に携わることへの意識の高さがうかがえました。

来場者からは「ずっと関心があったのでじっくり話が聞いてよかった」、「さっそく活動に参加したい」、「活動内容だけではなく、その理念なども知りたかった」などの感想が聞かれました。

今回、東京オリンピックや昨今の世界情勢の影響もあってか、従来にくらべ10代、20代の若い来場者が目立ちました。新しい風を受け入れ、町田の国際交流と外国人支援の輪がますます広がっていくことを期待できたオリエンテーションでした。

(広報部会 岡村 眞理)



ぼろんていえ
Volontiers! の由来：誘われたとき、頼まれたとき「喜んで!」と笑顔で応えるフランス語

町田国際交流センターではボランティアを中心に、日本にいる外国の方を支援したり、コミュニケーションの活性化をはかるなど、様々な活動を行っています。

国際交流事業やボランティアのお問い合わせは、町田国際交流センターまで

〒194-0013 東京都町田市原町田4-9-8 町田市民フォーラム4F
 TEL 042(722)4260 FAX 042(722)5330

https://www.machida-kokusai.jp
 E-mail:info@machida-kokusai.jp



プレスクール

子ども教室では、今年の4月から新たに「プレスクール」という、外国につながりを持つ未就学児を対象とした活動を始めました。小学生以上のクラスと同様に、第5週以外の毎週土曜日にオンラインで行っています。

音楽に合わせて日付や曜日、天気などを歌ったり、全員で身近にあるものを使用しながらゲームをしたりしています。初めは、画面上に並ぶ多くの顔を見て、逃げてしまっていた子、画面から見えなくなってしまう子もいました。直接声をかけてあげられないところが、オンラインの難しさだと改めて感じた出来事でした。保護者の方々の助けもあり、回数を重ねるごとにだんだん私たちの仲は深まり、画面の前での笑顔も増えていきました。今ではZoomへ入ってきた瞬間に大きな声で「おはよう。」とあいさつし、音楽も一緒に口ずさんでくれています。

プレスクールでは、「心の根っこを広げよう」というモットーのもと日々活動を行っています。このことには、「プレスクールの中で吸収した言語や知識、文化、価値観などが、日常生活でも友達の輪、コミュニケーションの輪を広げることに役立ってほしい」として、「プレスクールが日本語を勉強するだけの空間ではなく、子ども達の安心できる居場所になってほしい」という二つの意味が込められています。

このプレスクールでは、様々な感情を共有したいと思える相手に出会い、活動の中で、自分ができることを一つでも多く経験して行ってほしいです。そして学校に進学した際に、より充実した学校生活を送ってもらいたいです。そのための活動をこれからも参加者全員で作りに上げていきたいです。

(子ども教室・プレスクール 栗田 晶)



第22回 日本語学習ボランティア基礎講座始まる

日本語学習ボランティア基礎講座が9月22日より始まりました。20名の募集でしたが、29名の応募がありました。オンラインでの講座回数が多いこともあり、全員に受講していただくことにしました。第1回と最終回は対面学習、その他はオンラインでの講座となります。

1回は国際日本語普及協会(AJALT)の松尾恭子先生にお出でいただき、地域日本語教室とはどんなところなのか、学習者は何を求めてくるのかなどのお話のあと、協力して下さった中国人女性を含めてスタッフが外国人役となり外国人と話す模擬会話を経験しました。その中で各自にいろいろな気付きが生まれ、みんなで共有、話し合いをしました。自己紹介では日本では姓をいうのが普通ですが、国によっては名前をいう場合もあります。そんな時は「日本では姓を言いましょ」と伝えることが必要だということにも気が付きました。そのような日本語がほとんどできない外国人にどのように日本語を支援していくかの実例を動画でみることで、さらに理解を深めていきました。外国人学習者が知りたいことは何なのか、実際の生活で使う日本語や言葉の習慣などをやさしく伝えることが必要だとわかりました。

第2回目からはオンラインでの学習になります。オンラインでの講座では受講者同士のつながりが作りにくいですが、ブレイクアウトルームなどを活用してコミュニケーションが取れるようになればと工夫をしていきます。講座を修了し、多くの方がボランティアに参加して下さることを期待しています。

(地域日本語コーディネーター 荒明 美奈子)

